# 平成28年度「全国学力・学習状況調査」結果

文部科学省は、4月に小学6年生と中学3年生を対象に「全国学力・学習状況調査」を実施しました。

今年度は、学習状況調査と国語、算数（数学）の2教科の学力調査が実施され、市内小学6年生172名、中学3年生201名が参加しました。

今回、本市の結果について公表します。

※鹿児島県の結果分析については、県教育委員会ホームページ（http://www.pref.kagoshima.jp/ba04/kyoiku-bunka/school/teichaku/kiso/h28gaukekkah.html）に掲載されています。

## 学習状況調査

児童生徒の学習意欲、学習方法、学習環境、生活に関することを質問紙を用いて調査しました。

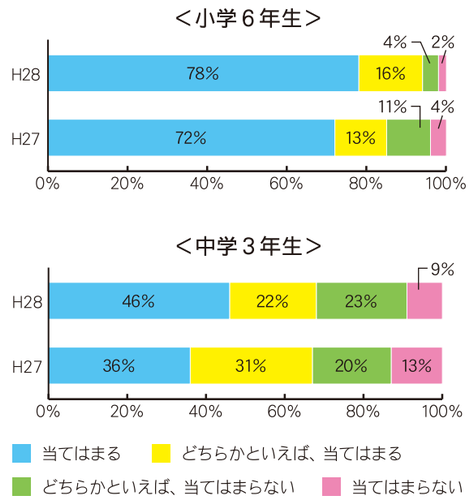
## 学力調査

次の2種類の問題が出題されました。

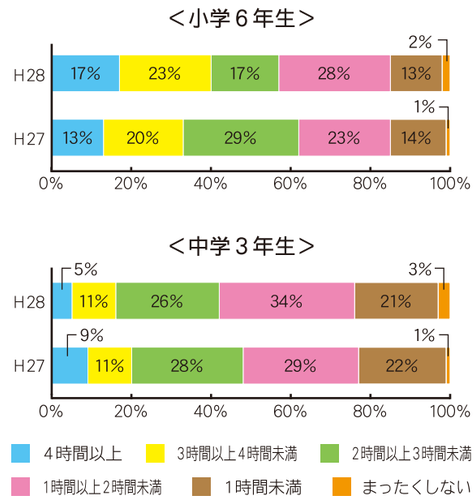
- **A問題**＝確実に身に付けておかなければならない学習内容を問う問題
- **B問題**＝知識・技能などを実生活のさまざまな場面に活用する力を問う問題

### ●学習状況調査の結果と考察

■将来の夢や目標を持っていますか。




■普段（月～金曜日）、1日あたりどれぐらいの時間、テレビやビデオ・ＤＶＤを見たり聞いたりしますか。




**考察**

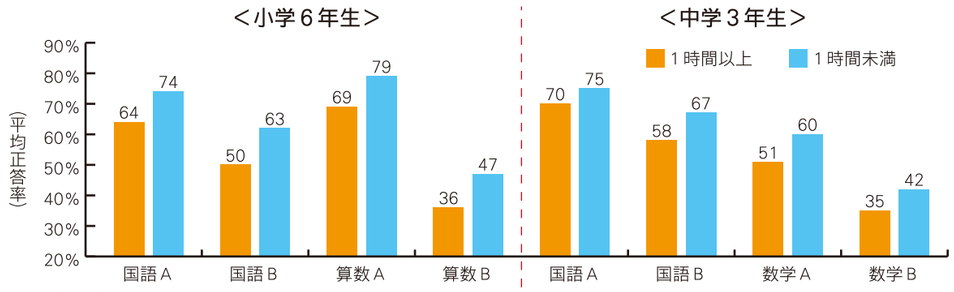
小学生の約95%、中学生の約70%が将来の夢や目標を持って生活しています。昨年度と比べると夢や目標を持っている児童生徒が増えています。周りの人たちの励ましの声かけが自信をもたせることになります。

**考察**

約40%の児童が平日に3時間以上、視聴しています。この割合は昨年度より増えてきています。

また、約15%の生徒が3時間以上、視聴しています。この割合は昨年度より減少しています。

■携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネット時間と学習状況調査との相関関係

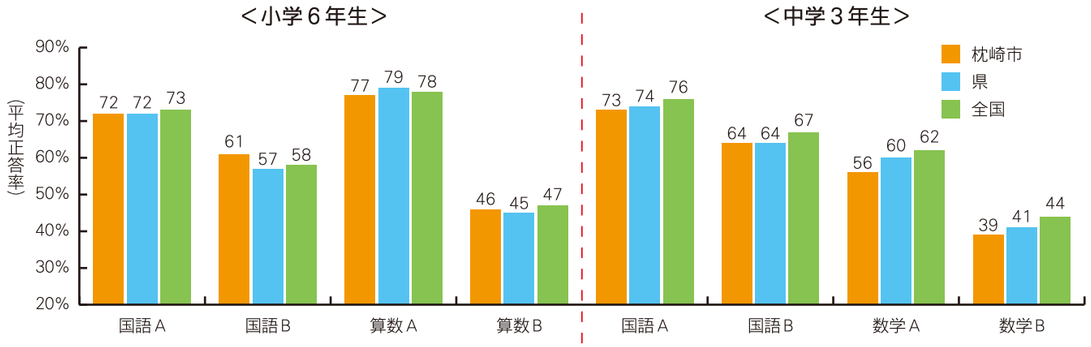



**考察**

普段（月～金曜日）、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が1日当たり1時間未満の児童生徒の方が、1時間以上している児童生徒よりテストの正答率が高いことが分かります。家庭学習の時間を確保するために家庭でのルールづくりが大切です。また、ノーメディアデー等に積極的に取り組む必要があります。



### ●学力調査の結果と考察




**考察**

●小学６年生

【国語】

Ａ問題は全国平均と同程度で、Ｂ問題は上回りました。

Ａ問題「読むこと」の領域は、全国平均より高い正答率でした。中でも「登場人物の人物像」について答える問題では、全国平均を大きく上回る正答率でした。

課題は、目的や意図に応じて、グラフや表を基に自分の考えを書いたり、本や文章を読み比べるなど工夫し、効果的な読み方をしたりすることです。

【算数】

Ａ問題、Ｂ問題ともに全国平均を下回りました。

Ａ問題「数量関係」の領域が全国平均よりも高い正答率でした。中でも「示された場面を式に表す」ことができるかどうかの問題では全国平均を大きく上回る正答率でした。

課題は、式と図を関連付けることや目的に応じて図形の性質を活用することです。

●中学３年生

【国語】

Ａ問題、Ｂ問題ともに全国平均を下回りました。

Ｂ問題「書くこと」の領域が全国平均より高い正答率でした。中でも「与えられた資料から課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考え、書き表す」ことができるかどうかの問題では、全国平均を上回る正答率でした。

課題は、文章の構成や展開について自分の考えを持ったり、互いの発言を検討して自分の考えを広げたりするなどの国語の基礎的な力を身に付けることです。

【数学】

Ａ問題、Ｂ問題ともに全国平均を下回りました。

Ａ問題の中で「具体的な場面における数量関係を捉え、比例式を作る」ことができるかどうかの問題では、全国平均を上回る正答率でした。

課題は、計算問題を正確に解いたり、問題解決の方法やさまざまな課題の理由を数学的な表現を用いて説明したりすることです。

## 学校外での生活状況と学力状況の相関関係

**学力検査の平均正答率が高かった児童生徒の学習状況調査の内容**

- 家の人（兄弟姉妹を除く）と学校の出来事について話をしている。
- 自分で計画を立てて勉強をしている。
- 予習・復習やテスト勉強などで、教科書を使いながら学習している。
- 今住んでいる地域の行事に参加をしている。

## 今後の取り組み

本調査結果の分析を基に学校及び教育委員会では、家庭にも協力を呼びかけ、連携を図りながら子どもたちの学力向上に取り組んでいきます。

### 学校では

- 本調査結果から明らかになった課題を詳しく分析し、改善策を講じることで、児童生徒一人一人に応じたきめ細やかな指導の充実に努めます。
- 授業の学習課題を明確に提示し、学習の見通しを持たせるとともに、学習のまとめをしっかり行い、学習を振り返る活動を充実させることで一単位時間の学習の定着を図ります。
- ペアやグループでの効果的な学習方法を工夫し、対話活動を通した協働的な学習を充実させます。
- 小・中学校で連携を図りながら、望ましい学習や生活態度を身に付けさせられるように、計画的・段階的な指導に取り組みます。
- 授業と家庭学習を関連付けるとともに、家庭学習の見届けを確実に行い、家庭での予習や復習の大切さを児童生徒に理解させます。

### 家庭では

- 本市の家庭学習の目標時間である小学1・2年生40分、3・4年生60分、5・6年生90分、中学生120分に取り組めるよう今後も各家庭へ協力をお願いしていきます。
- ノーメディアデーの実施やインターネット機器の使用に関する家庭内ルールやフィルタリング設定の重要性を呼びかけていきます。
- 家族の会話時間をできるだけ持ち、子どもの成長を親子で楽しむ機会を多く設定できるように呼びかけていきます。

■**問合せ**　学校教育課　TEL72-0170